

湘南♡風と星物語

東大二宮果樹園跡地の魅力

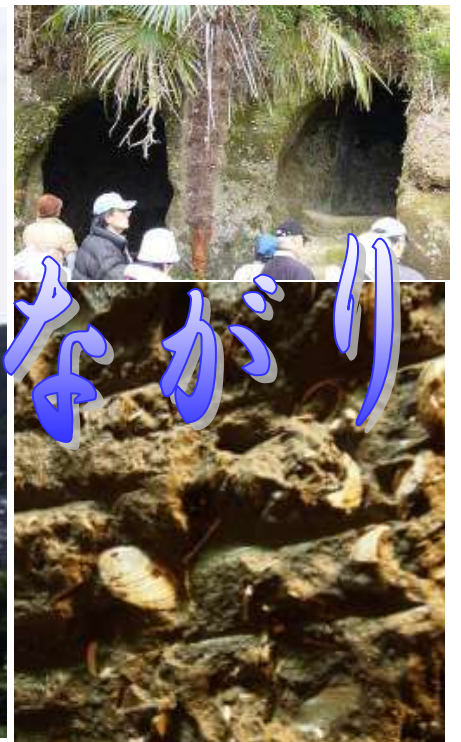
東京帝国大学が二宮のこの地に果樹園の土地を求めたのは、東京に近く、みかんの経済的栽培が可能であるという点が考慮されたようです。

私は弟橘媛(オトタチバナヒメ)。
私は、二宮町にも、名前に「橘」が入っているようにみかんにも縁が深いので、「東大二宮果樹園跡地の魅力」の案内役を務めます。



弟橘媛
オトタチバナヒメ





魅力！ 相模湾とのつながり

私はこの辺に住んでいたとも言われています。夫の日本武尊(ヤマトタケル)が東征の折、荒れた海に入水し、波を鎮め、夫の難を救いました。その時櫛や袖がこの海岸に打ち上げられ、袖ヶ浦海岸と名付けられ、その櫛を山頂に埋めて祀ったのが吾妻神社の創建だと言われています。



弟橘媛
オトタチバナヒメ

この東大二宮果樹園跡地のみかん畑だった所から展望できる相模湾は、プレート運動による全国で3つしかない深海を抱える特異な湾の一つです。二宮町の地形は、古代にその海底が隆起して形成されました。海底であったことは、隣地の鶴巻田横穴墓群で地層に貝化石が多数見られ、わかります。

この跡地も私も相模湾と深く関わり、つながっています。





東大二宮果樹園跡地は、全国でも稀なくらい多くの時代の遺跡が残存しています。

その中でも古墳時代の多数の横穴墓があった**諏訪脇横穴墓群**からは貴重な遺物が出土されています。

7世紀後半～8世紀後半の約100年間に、横穴墓が53基確認され、大和朝廷の皇族の下くらいの有力者の存在を示す金メッキ、メノウ、イモガイの加工品が出土しています。



弟橘媛
オトタチバナヒメ



金銅製圭刀頭





弟 橘 媛
オトチバナヒメ



諏訪脇横穴墓群は東大でも発掘調査を行い、小田原厚木道路の建設が決まると東大教授から保存の声もあがったそうです。

埋蔵物は、現在東大と横須賀自然・人文博物館に収蔵されています。学芸員さんのお話によると、多数の横穴墓から出土された埋蔵物は、当時の日本の様々な地の特色があり、現在の国際都市のような地域ではなかったということでした。





から息づく歴史



弟橘媛
オトタチバナヒメ



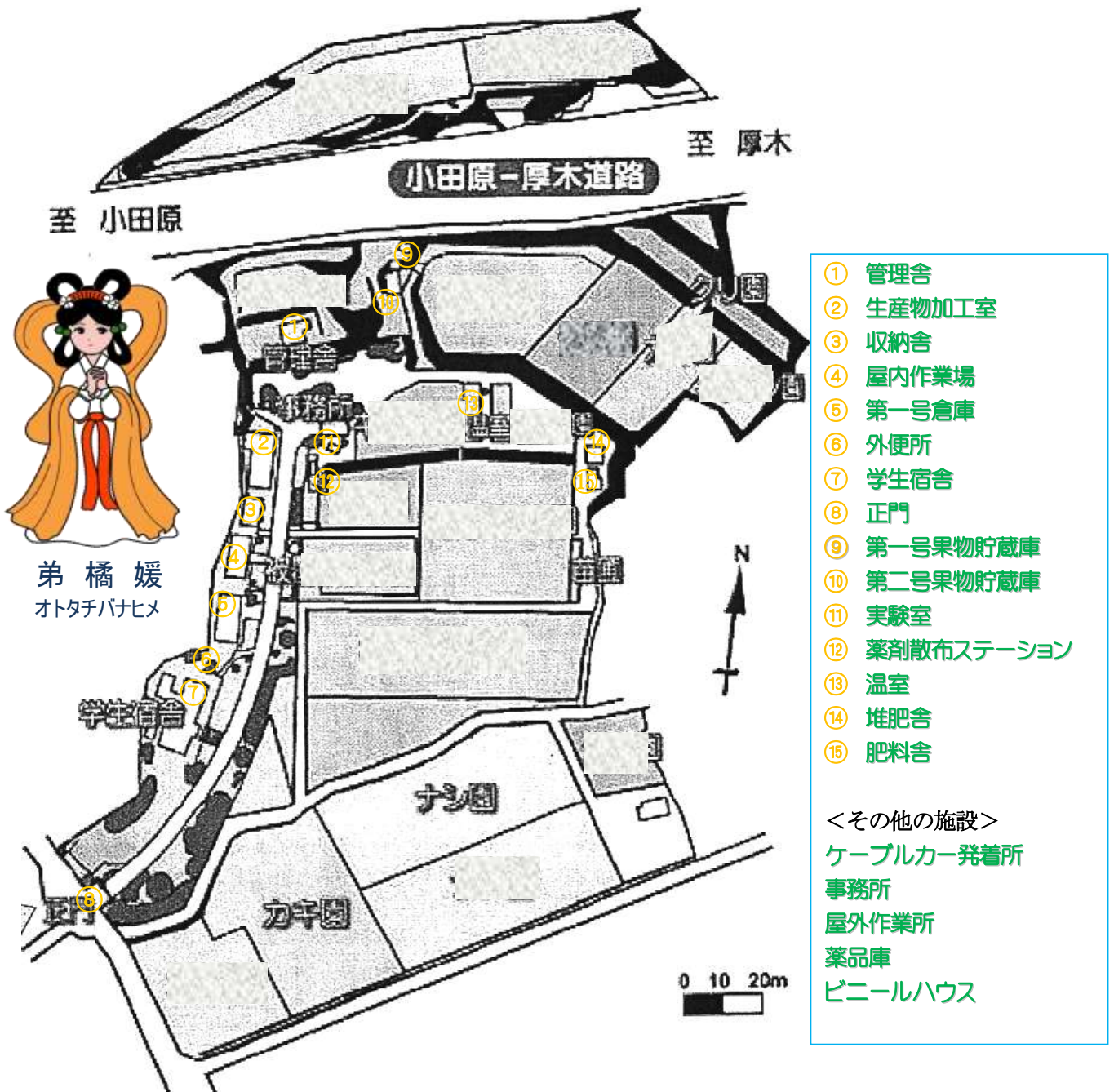
諏訪脇横穴墓は、小田原厚木道路の建設でほとんどが埋められてしまいましたが、現存しているものもあります。学生宿舎付近の斜面に残っている横穴墓は、隣地の鶴巻田横穴墓とつながっていて、戦争末期には陣地が作られました。

他の鶴巻田横穴墓には、現在ワインカーブとして使われているものもあります。その丘の上には月待ち講の石碑もあり、素敵な気の流れも感じられるようです。



魅力4

大正・昭和の建物が多数現存



① 管理舎

1926(大正 15)年 11 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 66 m²(延 66 m²)



② 生産物加工室

1935(昭和 10)年 10 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 133 m²(延 133 m²)



③ 収納舎

1938(昭和 13)年 1 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 59 m²(延 59 m²)



④ 屋内作業場

1981(昭和 56)年 1 月竣工
鉄骨造 1 階建て
建物面積 102 m²(延 102 m²)



⑤ 第一号倉庫

1931(昭和 6)年 10 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 99 m²(延 99 m²)



⑥ 外便所

1988(昭和 63)年 3 月竣工
鉄骨造 1 階建て
建物面積 9 m²(延 9 m²)



⑦ 学生宿舎

1934(昭和 9)年 3 月竣工
木造 2 階建て
建物面積 233 m²(延 419 m²)



⑧ 正門

1934(昭和9)年12月竣工
鉄筋コンクリート造



⑨ 一号果物貯蔵庫

1937(昭和12)年1月竣工
鉄骨造 1階建て 建物面積 8㎡(延 8㎡)

⑩ 第二号果物貯蔵庫

1937(昭和12)年1月竣工
木造 1階建て
建物面積 24㎡(延 24㎡)



⑪ 実験室

1938(昭和13)年2月竣工
木造 1階建て
建物面積 39㎡(延 39㎡)



⑫ 薬剤散布ステーション

1959(昭和34)年1月竣工
木造 1階建て
建物面積 14㎡(延 14㎡)



⑬ 温室

1967(昭和42)年3月竣工
鉄骨造 1階建て
建物面積 129㎡(延 129㎡)



⑭ 堆肥舎

1937(昭和12)年10月竣工
木造 1階建て
建物面積 33㎡(延 33㎡)



⑮ 肥料舎

1921(大正10)年3月竣工
木造 1階建て
建物面積 33㎡(延 33㎡)



その他の施設



ケーブルカー発着所



事務所





東大二宮果樹園は、元園田孝吉男爵の別荘と梨園で、大正4年67歳の時に療養生活を始めました。現在、場所を特定することはできませんが、肥料舎は、その当時のものです。

その当時建てられたと言われているスリークオーターガラス温室が昭和30年代に撮影された写真では管理舎の下にあり、この辺が庭園だったかと推測されます。このことから、現存する池は庭園の一部だったかもしれません。



弟橘媛
オトタチバナヒメ



魅力6

内田元東大総長が
監修したとされる建物が現存



内田祥三元東大総長は文化勲章を授与された日本を代表する建築家です。大学教授を続けながら営繕課長を兼任し東、大の建物を建設していました。

ここには建物の建築年が営繕課長に就任していた時期の建物があります。このことから、内田祥三元東大総長が監修した建物が現存していると推定されます。



弟橋媛
オトタチバナヒメ

学生宿舎(1934(昭和9)年3月竣工)、生産物加工室(1935(昭和10)年10月竣工)、収納舎(1938(昭和13)年1月竣工)の3棟です。



学生宿舎(1934(昭和9)年3月竣工)



生産物加工室(1935(昭和10)年10月竣工)



未来に伝えたい写真展 No.12

収納舎(1938(昭和 13)年 1 月竣工)





東京帝国大学時代の歴史的建造物と果樹園がセット現存し、産学遺跡としての価値が大きいと思います。

管理舎は大正時代の歴史的建造物。当時としては観音開きのルーパー付きでモダンな洋館です。

生産物加工室は越屋根付の2つの切妻がTの字型に配置された独創的な農場建物。ここで生産されていたイチジクの缶詰は宮中に献上され、昭和天皇の好物だったそうです。

梨園、柿園は現存し、園内には梨、柿、キウイ、栗、フェイジョア、グミ、カラタチの木なども残っています。



管理舎 1926(大正 15)年 11 月竣工





「しお風」が、東大果樹園跡地内にここを借りている伊藤さんや協力者の力も借りて、グラウンドの横に野の花畑やフェンス沿いに花壇などを作っています。



弟橘媛
オトタチバナヒメ

東大二宮果樹園跡地を訪れた人や通りがかりの人、子どもたちが季節を感じ、ほっとする場。花を通して会話や交流が生まれ、花遊びが楽しめる場となるようにしたいと思っています。





東大二宮果樹園跡地の一部は、少年野球チーム一色イーグルスのグラウンドとして暫定利用され、練習以外にも子どもたちが楽しく利用できます。

また、子どもたちが自然の中で、好奇心や創造性を伸ばし、のびのび遊べる環境や、遊び場を作りたいと発足した「にのみや子ども自然塾」が、年間を通して催しを実施しています。

「しお風」も二宮独自の七夕の再現に挑戦する「walkwalk こどもふるさと」探検隊を夏休みに実施しました。

